

オリンピック・パラリンピックの現在史

これまでと、それからと、これからのことと

富田幸祐（日本体育大学オリンピックスポーツ文化研究所）

オリンピックの現在を考える

オリンピック(・パラリンピック)が内包する様々な画期(変遷)を捉える

紆余曲折?な歩みによるアップデートを重ねたオリンピックの姿

現在のオリンピックが到着した地点とは?

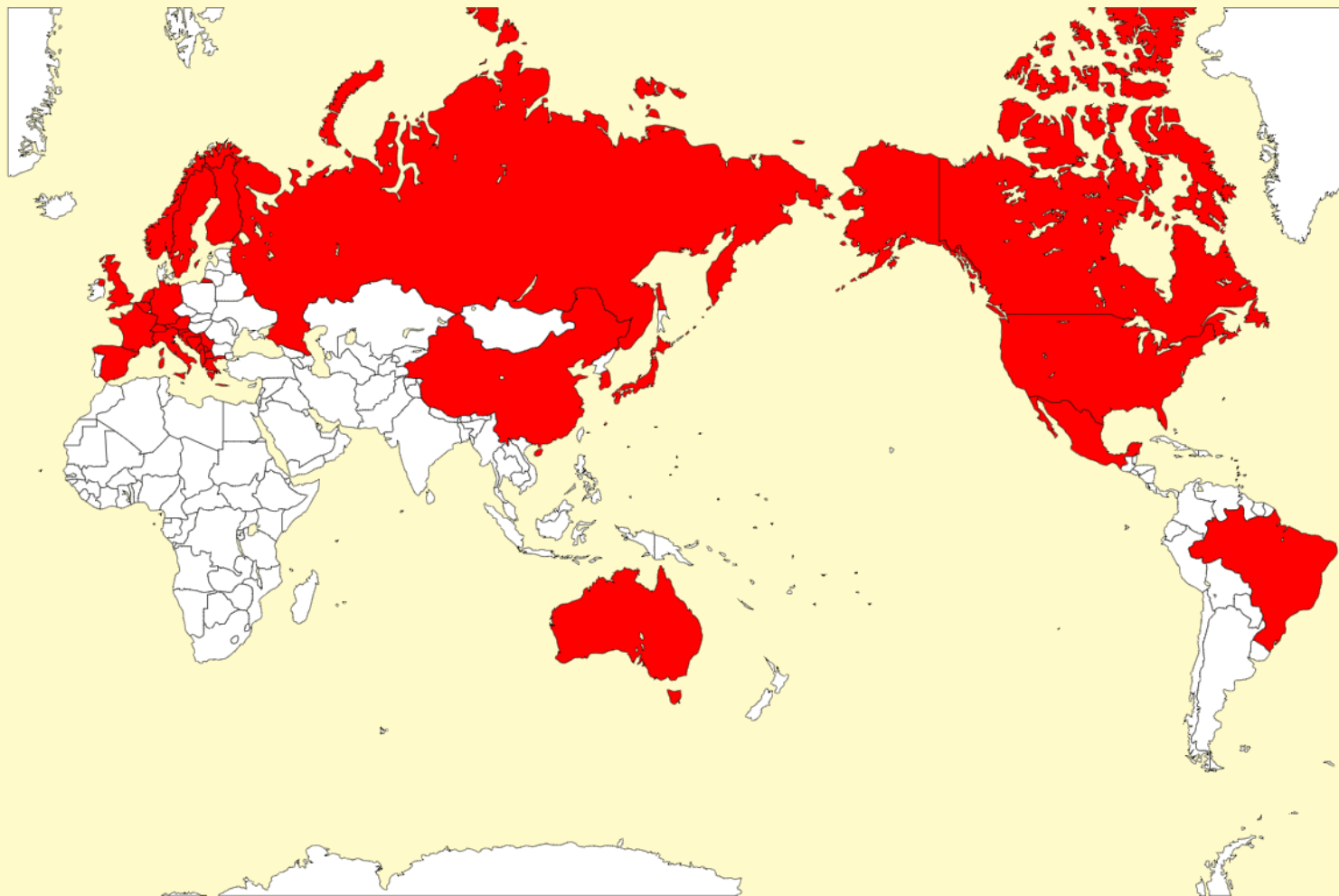
オリンピック夏季大会開催都市一覧

夏季大会								
回	開催年	開催地 (国)	回	開催年	開催地 (国)			
						21	1976	モントリオール (カナダ)
1	1896	アテネ (ギリシャ)	12	1940	東京 (日本) -返上	22	1980	モスクワ (ソ連)
2	1900	パリ (フランス)			ヘルシンキ (フィンランド) -中止	23	1984	ロサンゼルス (アメリカ)
3	1904	セントルイス (アメリカ)	13	1944	ロンドン (イギリス) -中止	24	1988	ソウル (韓国)
4	1908	ロンドン (イギリス)	14	1948	ロンドン (イギリス)	25	1992	バルセロナ (スペイン)
5	1912	ストックホルム (スウェーデン)	15	1952	ヘルシンキ (フィンランド)	26	1996	アトランタ (アメリカ)
6	1916	ベルリン (ドイツ) -中止	16	1956	メルボルン (オーストラリア)	27	2000	シドニー (オーストラリア)
7	1920	アントワープ (ベルギー)			ストックホルム (スウェーデン)	28	2004	アテネ (ギリシャ)
8	1924	パリ (フランス)	17	1960	ローマ (イタリア)	29	2008	北京 (中国)
9	1928	アムステルダム (オランダ)	18	1964	東京 (日本)	30	2012	ロンドン (イギリス)
10	1932	ロサンゼルス (アメリカ)	19	1968	メキシコシティ (メキシコ)	31	2016	リオデジャネイロ (ブラジル)
11	1936	ベルリン (ドイツ)	20	1972	ミュンヘン (西ドイツ)	32	2020	東京 (日本)

オリンピック冬季大会開催都市一覧

冬季大会					
回	開催年	開催地 (国)	回	開催年	開催地 (国)
1	1924	シャモニー・モンブラン (フランス)	13	1980	レークプラシッド (アメリカ)
2	1928	サン・モリッツ (スイス)	14	1984	サラエボ (ユーゴスラビア)
3	1932	レークプラシッド (アメリカ)	15	1988	カルガリー (カナダ)
4	1936	ガルミッシュ・パルテンキルヘン (ドイツ)	16	1992	アルベールビル (フランス)
5	1948	サン・モリッツ (スイス)	17	1994	リレハンメル (ノルウェー)
6	1952	オスロ (ノルウェー)	18	1998	長野 (日本)
7	1956	コルチナ・ダンペッツォ (イタリア)	19	2002	ソルトレークシティ (アメリカ)
8	1960	スコーバレー (アメリカ)	20	2006	トリノ (イタリア)
9	1964	インスブルック (オーストリア)	21	2010	バンクーバー (カナダ)
10	1968	グルノーブル (フランス)	22	2014	ソチ (ロシア)
11	1972	札幌 (日本)	23	2018	平昌 (韓国)
12	1976	インスブルック (オーストリア)	24	2022	北京 (中国)

順位	国名	回数	夏季	冬季
1	アメリカ	8	4	4
2	フランス	5	2	3
3	日本	4	2	2
4	イタリア	4	1	3
5	ドイツ	3	2	1
5	イギリス	3	3	—
7	ギリシャ	2	2	—
7	スウェーデン	2	2	—
9	スイス	2	—	2
9	ノルウェー	2	—	2
9	オーストラリア	2	2	—
9	オーストリア	2	—	2
9	カナダ	2	1	1
9	ソ連／ロシア	2	1	1
9	韓国	2	1	1
9	中国	2	1	1
17	フィンランド	1	1	—
17	メキシコ	1	1	—
17	ユーゴスラビア	1	—	1
17	スペイン	1	1	—
17	ブラジル	1	1	—

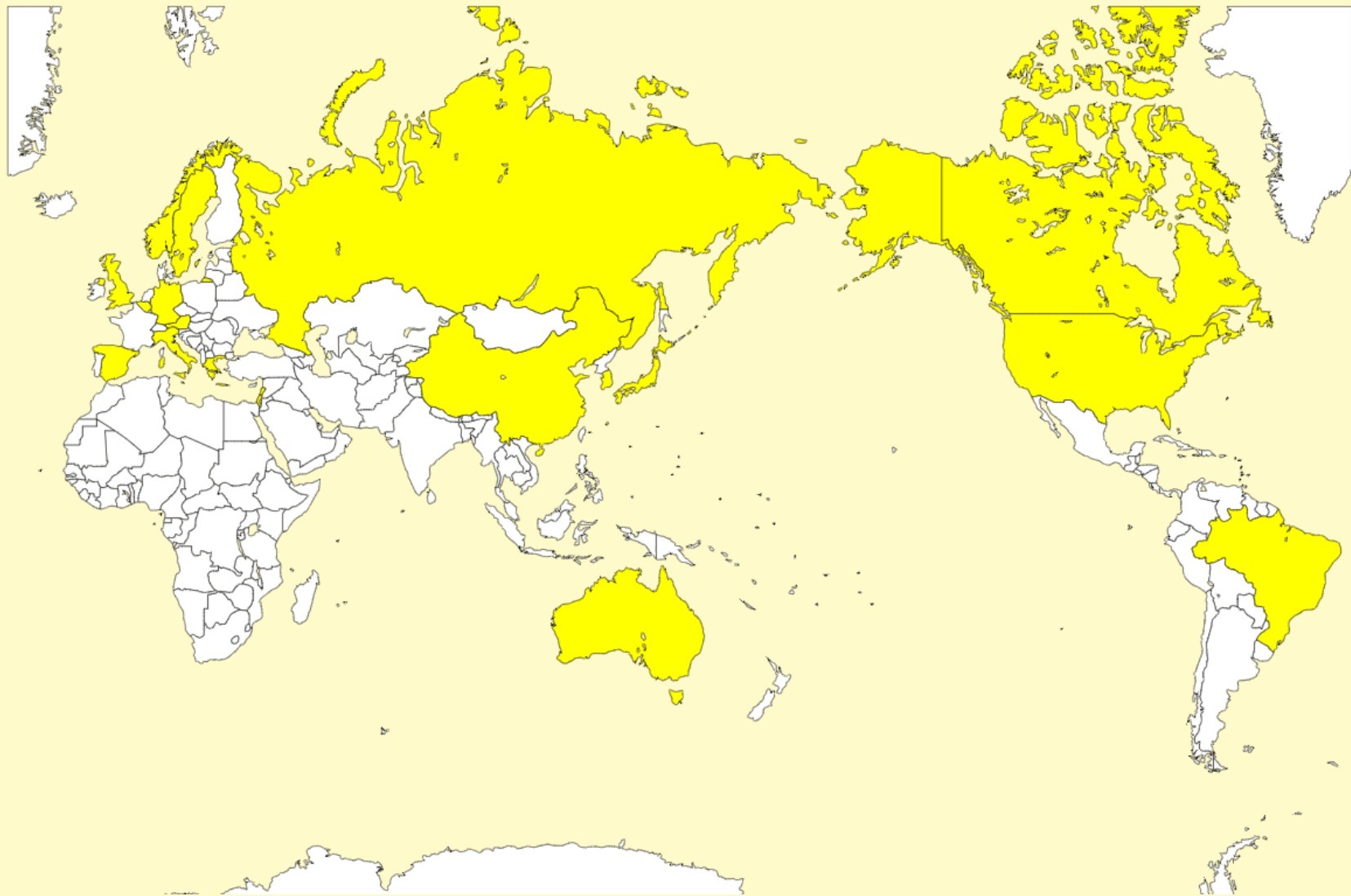


パラリンピック夏季大会開催都市一覧

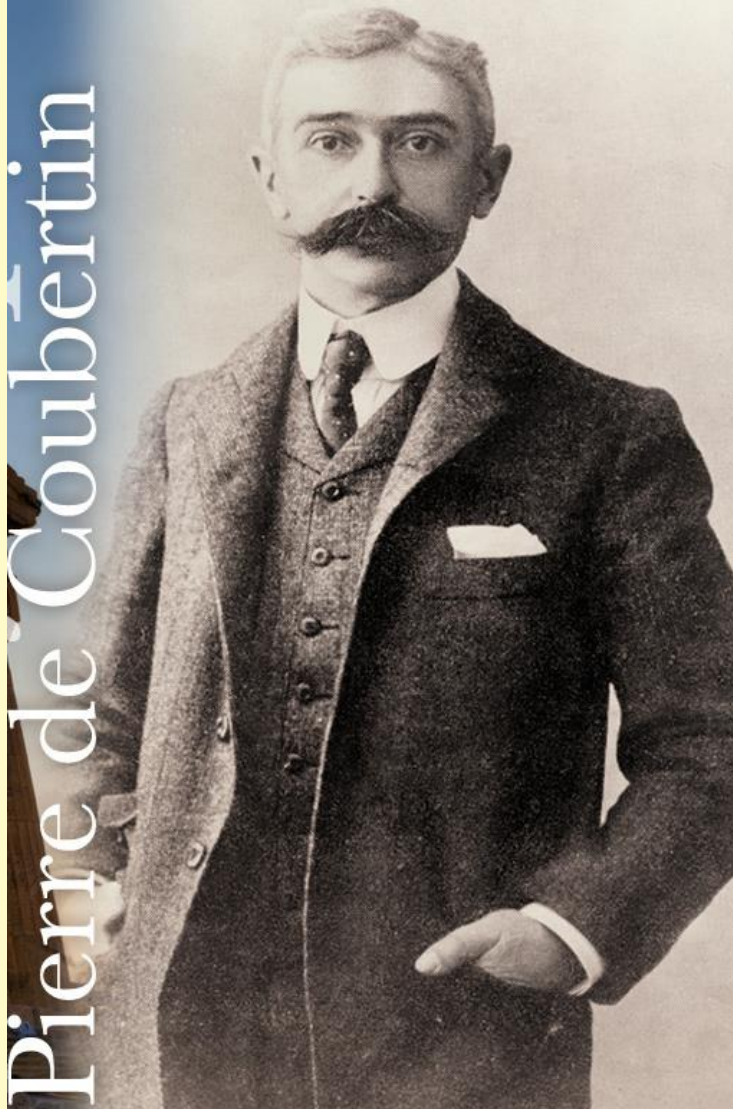
夏季大会					
回	開催年	開催地（国）	回	開催年	開催地（国）
1	1960	ローマ（イタリア）	9	1992	バルセロナ（スペイン）
2	1964	東京（日本）	10	1996	アトランタ（アメリカ）
3	1968	テルアビブ（イスラエル）	11	2000	シドニー（オーストラリア）
4	1972	ハイデルベルグ（西ドイツ）	12	2004	アテネ（ギリシャ）
5	1976	トロント（カナダ）	13	2008	北京（中国）
6	1980	アーネム（オランダ）	14	2012	ロンドン（イギリス）
7	1984	ニューヨーク（アメリカ） ストークマンデビル（イギリス）	15	2016	リオデジャネイロ（ブラジル）
8	1988	ソウル（韓国）	16	2020	東京（日本）

パラリンピック冬季大会開催都市一覧

冬季大会		
回	開催年	開催地（国）
1	1976	エンシェルツヴィーク（スウェーデン）
2	1980	ヤイロ（ノルウェー）
3	1984	インスブルック（オーストリア）
4	1988	インスブルック（オーストリア）
5	1992	アルベールビル（フランス）
6	1994	リレハンメル（ノルウェー）
7	1998	長野（日本）
8	2002	ソルトレークシティ（アメリカ）
9	2006	トリノ（イタリア）
10	2010	バンクーバー（カナダ）
11	2014	ソチ（ロシア）
12	2018	平昌（韓国）
13	2022	北京（中国）



近代オリンピックはなぜ生まれたか



ピエール・ド・クーベルタン(男爵)

1863年(パリ生まれ)~1937年没(74歳)

幼少期に普仏戦争を経験

☆戦争のない平和な社会を作りたい!

⇒教育による世界平和への貢献

イギリスにおけるスポーツ教育とギリシャで行われていた古代オリンピックをヒントに近代オリンピックを着想

1896年に第1回大会(アテネ)を開催

国際オリンピック委員会(IOC)を設置

オリンピズムの根本原則

1. **オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。** オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。
2. **オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。**
3. **オリンピック・ムーブメントは、オリンピズムの価値に鼓舞された個人と団体による、協調の取れた組織的、普遍的、恒久的活動である。** その活動を推し進めるのは最高機関のIOCである。活動は5大陸にまたがり、偉大なスポーツの祭典、**オリンピック競技大会に世界中の選手を集めるとき、頂点に達する。** そのシンボルは5つの結び合う輪である。

オリンピックの根本原則

4. **スポーツをすることは人権の 1 つである。**すべての個人はいかなる種類の差別も受けることなく、オリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。オリンピック精神においては友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められる。
5. **オリンピック・ムーブメントにおけるスポーツ団体は、スポーツが社会の枠組みの中で営まれることを理解し、政治的に中立でなければならない。スポーツ団体は自律の権利と義務を持つ。**自律には競技規則を自由に定め管理すること、自身の組織の構成とガバナンスについて決定すること、外部からのいかなる影響も受けずに選挙を実施する権利、および良好なガバナンスの原則を確実に適用する責任が含まれる。
6. このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、**いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。**
7. オリンピック・ムーブメントの一員となるには、オリンピック憲章の遵守および IOC による承認が必要である。

IOCの使命と役割

1. スポーツにおける倫理と良好なガバナンスの促進、青少年教育の奨励と支援、フェアプレー精神の普及
2. スポーツ大会の組織運営、支援
3. オリンピックの開催
4. 平和の推進（その限りにおいて公的また私的機関との協力）
5. 政治的中立の維持、スポーツの自律性の保護
6. 差別の反対
7. アスリートの活動支援
8. 女性の地位向上
9. ドーピングの禁止

IOCの使命と役割

10. 選手に対する医療や健康対策の支援
11. 政治的商業的に不適切な利用からの保護
12. 選手のキャリア形成への公的機関やスポーツ団体への呼びかけと支援
13. スポーツ・フォー・オール of 促進
14. 環境問題に関わる持続可能な発展の奨励
15. オリンピックの有益な遺産を開催国と都市にのこす
16. スポーツと文化、教育を融合させる活動の支援
17. 国際オリンピック・アカデミーやオリンピック教育の推進
18. ハラスメントからアスリートを保護

オリンピックとはなにか？

単なる世界一を決める国際スポーツ大会ではない
戦争のない、豊かで、平等な社会を築き上げるための平和運動=オリンピック
「生き様」の哲学ともいえる

そのためにIOCはスポーツを通じた活動、支援、保護を実践（使命と役割）

このオリンピックで重要なことは、勝利することより
むしろ参加することであろう

タルボット司祭（1904）

IOCによる平和貢献の足跡

成果と課題／可能性と限界

- 国旗国歌廃止案
- オリンピック休戦
- 難民選手団
- ユースオリンピックの開催

オリンピックにおける国旗国歌の廃止案

第二次大戦後の東西冷戦によるオリンピックおよびスポーツ界におけるスポーツの政治利用の続発

西側陣営諸国による東ドイツの入国および大会参加拒否

日本でも1963年のプレ五輪で東ドイツの入国を政府が認めようとはしなかった。

※西ドイツとの関係から未承認国家である東ドイツの国旗国歌を使わせたくない。

国旗国歌のあるなしで揉めるのなら、スポーツ大会の場で国旗国歌を使わなければいい

第5代会長A・ブランデー期より国旗国歌廃止が議論されるようになる。

NOCやIFからの反対もあり提案の都度否決され、廃止ならず

オリンピック休戦（エケケイリア）

古代オリンピックでは大会期間中の都市間の戦争を中止（出場選手の安全確保）

1992年バルセロナオリンピックへのユーゴ出場問題

ユーゴ代表の選手は個人資格での参加へ（ユーゴとして参加できず）

バスケットなどの団体競技は参加できず

※ただしクロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、スロベニアは参加

1992年にユーゴ内戦による国連の制裁（ユーゴスラビアのスポーツ大会参加を禁止する）を背景に近代オリンピックにおけるエケケイリアの実践をIOCが提案

1994年リレハンメル以降の各大会で宣言される

難民選手団の結成

ROT (Refugee Olympic Team)

母国の政情不安のために国外避難等をした世界各国出身者で編成
リオ大会で初めて結成

東京2020大会にも編成予定

選手	母国	ホストNOC	競技	種目
ジェームス・ニャン・チェンジェック	南スーダン	ケニア	陸上競技	男子400m
イエーシュ・ピュール・ビエル	南スーダン	ケニア	陸上競技	男子800m
パウロ・アモトゥン・ロコロ	南スーダン	ケニア	陸上競技	男子1500m
ヨナス・キンド	エチオピア	ルクセンブルク	陸上競技	男子マラソン
ポポール・ミセンガ	コンゴ民主共和国	ブラジル	柔道	男子90kg級
ラミ・アニス	シリア	ベルギー	競泳	男子100mバタフライ
ローズ・ナティケ・ロコニエン	南スーダン	ケニア	陸上競技	女子800m
アンジェリーナ・ナダイ・ロハリス	南スーダン	ケニア	陸上競技	女子1500m
ヨランダ・マビカ	コンゴ民主共和国	ブラジル	柔道	女子70kg級
ユスラ・マルディニ	シリア	ドイツ	競泳	女子200m自由形

ユースオリンピック競技大会

2007年にIOC会長のジャック・ロゲが提案

出場資格は15歳から18歳で、夏季・冬季大会が2年おきに開催（次回2022年はセネガル）

競技だけでなく**教育・文化プログラムの実施**（各国の文化や環境、反ドーピングなどについて学ぶ）

年月	大会	開催地
2020年1月	第3回ユースオリンピック冬季大会	ローザンヌ
2018年10月	第3回ユースオリンピック冬季大会	ブエノスアイレス
2016年2月	第2回ユースオリンピック冬季大会	リレハンメル
2014年8月	第2回ユースオリンピック夏季大会	南京
2012年1月	第1回ユースオリンピック冬季大会	インスブルック
2010年8月	第1回ユースオリンピック夏季大会	シンガポール

※2022年大会（ダカール:セネガ）は延期

レガシー戦略

オリンピックの開催が開催国や開催都市に**好ましい遺産となることを目指す**

21世紀のIOCの新たな戦略

大会後に廃墟と化する施設群やオリンピック開催をめぐるウラ問題の克服

例:2012年ロンドンオリンピックにおけるイーストロンドンの再開発

東京オリ・パラ大会でもアクション&レガシープランが実践

IOCが直面したオリンピックの現実

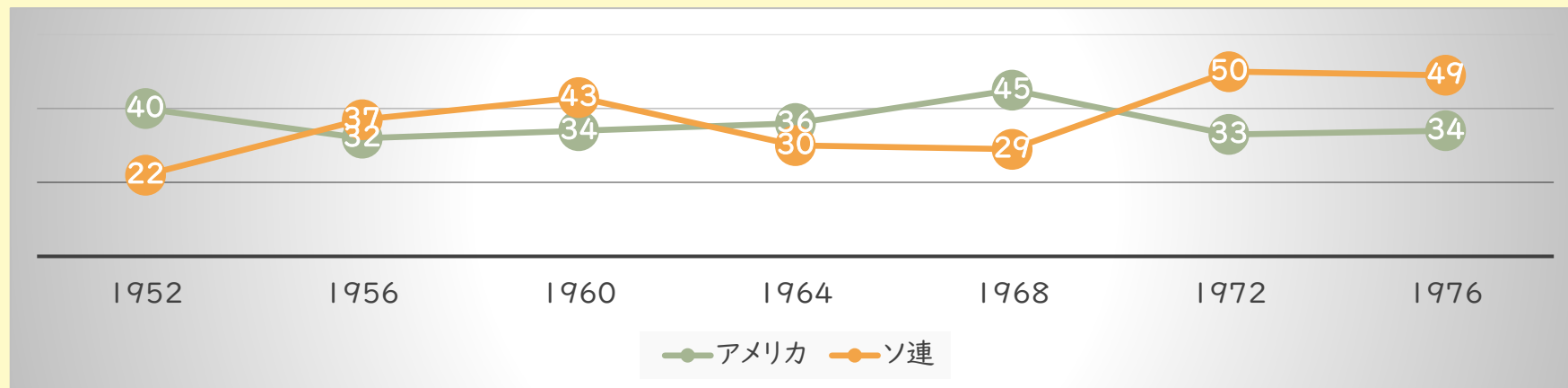
- 国威発揚の場としてのオリンピック
- スポーツと国際政治 (exモスクワオリンピックボイコット)
- 商業主義 (そしてメディア) の席卷
- オリンピックの変革 (内から、外から)

国威発揚の場

壮大な大会の開催（1936年のベルリン大会以降）

メダル獲得競争（東西冷戦以降）

⇒他国（敵国やライバル国）よりも自国が優れている（政治的に社会的に教育的に）



モスクワオリンピック（1980）ボイコット

1979年12月

ソ連がアフガニスタンに侵攻

アメリカのカーター大統領がソ連を非難し

西側諸国にオリンピックボイコットを提唱

アメリカ、日本、韓国など60近い国・地域が不参加

商業主義（そしてメディア）の席卷

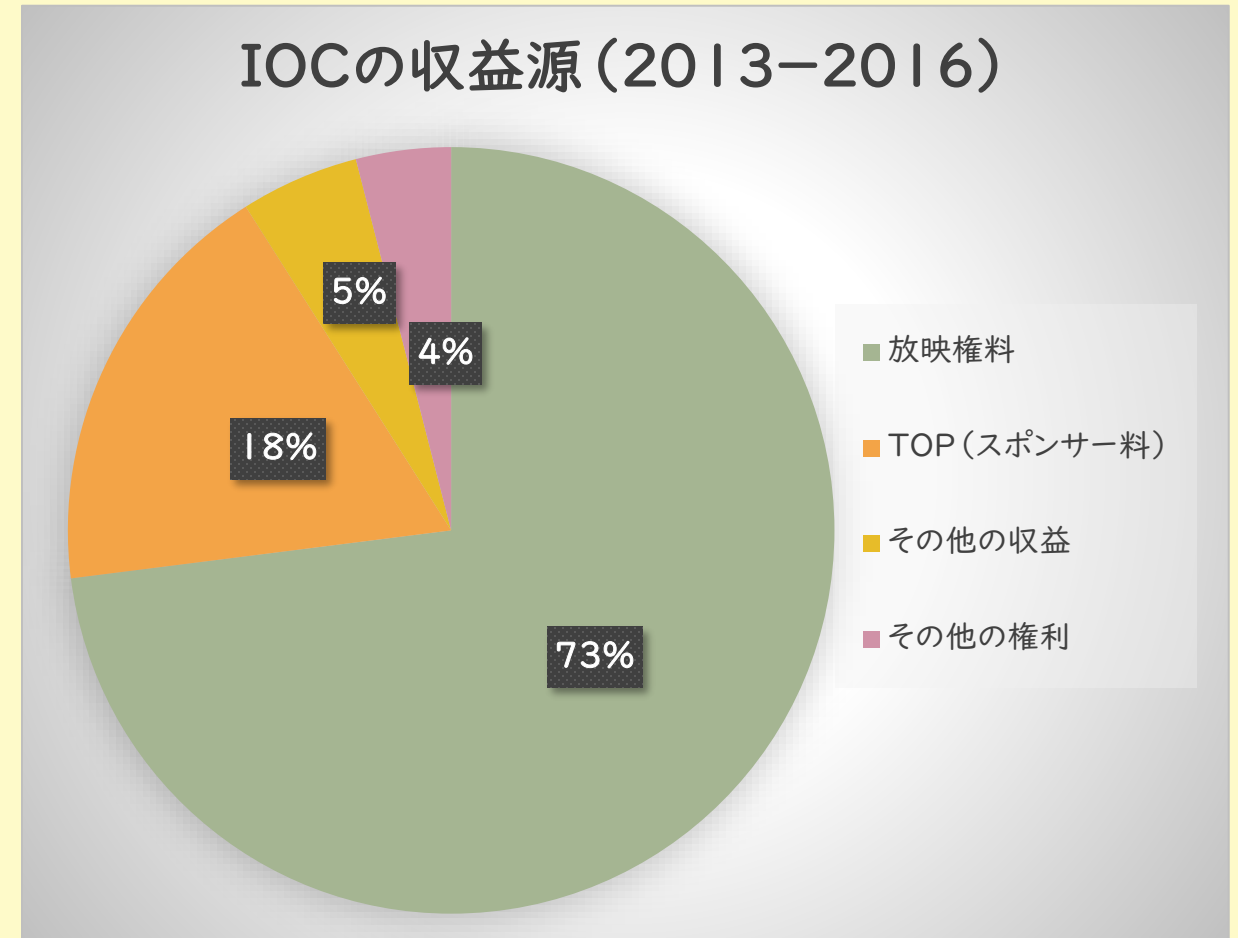
1984年ロサンゼルス大会は公的資金を使わずに民間資金のみでの大会運営（ロサンゼルス市が支援に難色）

放映権やスポンサー制度（一業種一社）の確立（資金の確保）

ピーター・ユベロス（後のMLBコミッショナー）

政治の支配からの離脱を目論み
ビジネスとの接近

メディアによるオリンピック支配へ



IOC, *IOC Annual Report 2019*, p. 119を基に作成

オリンピックを外から変える試み

1936年 バルセロナで人民オリンピックの計画

ベルリンオリンピック開催に反対してスペインの人民戦線が計画

7月19日から26日まで開催予定も19日にスペイン内戦が始まり中止

1963年 ジャカルタで新興国競技大会の開催

前年のアジア大会でインドネシアが台湾とイスラエルの参加を拒否

IOCがインドネシアに対しオリンピック参加禁止処分を下す

(オリンピックではなく)IOCを非難したインドネシアが新たな大会創設を宣言

翌年の九・三〇事件で1回のみの開催となる

オリンピックを内から変革する

1956年メルボルン大会

スエズ動乱→エジプト、レバノン、イラク

ハンガリー侵攻→スペイン、オランダ、スイス

2つの中国問題→中華人民共和国

1964年東京大会

新興国競技大会問題→インドネシア、朝鮮民主主義人民共和国

インドネシア参加問題→アラブ諸国（※未遂）

南アフリカ参加問題→アフリカ諸国（※未遂）

ボイコットはオリンピックの常套手段

1976年モントリオール大会

南アフリカとスポーツ交流を続けるニュージーランドをオリンピックから排除するようにアフリカ諸国がIOCに要求するも、IOCがこれを受入れず

アフリカの22の国がボイコット

1980年モスクワ大会

1984年ロサンゼルス大会

ソ連や東ドイツなど15の国がボイコット

理想と現実

国と国との争いではない

→国旗国歌廃止案の否決やボイコットの多発、メダル競争により無実化

アマチュア規定の撤廃（1970年代）

→大会や開催都市だけでなくアスリートにも資本（商業主義）の介入が可能に

掲げる理想が一つ一つ現実に対応する形にカスタマイズされ続ける

東京2020大会「延期」

4年に1度のサイクルをいじる(※)

スポーツ関係者不在の中での決定

「電話協議は…首相公邸で行われた。大会組織委員会の森喜朗会長、東京都の小池百合子都知事、菅義偉官房長官、橋本聖子五輪相が同席した」

IOCとNOC、開催都市(※) → IOCと政府、開催都市

2つの(※)はオリンピックにとって大きな変化!

オリンピックが帯びる独特の時空間とスポーツの自律／自治に対する大きな変化(介入)

オリンピックの再・再考

オリンピックそのものの価値もあり方は普遍的でも強固なものでもない
時代の要請にいい意味でも、悪い意味でも影響を受ける

オリンピックの(たぶん)絶対譲れない点→スポーツを通じた教育

いまの東京2020大会のあり方もやわらかい視点でとらえてみることも大事

「中止」「開催」「延期」の3点セットは史上初!

「だれ」にとって「なんの」ための大会と最もなっているのか／ならざるをえないのか